



令和3年度 前期ふり返りアンケート 結果のお知らせ



学校教育目標 いきいき学び、心豊かに生活し、未来を切り拓く 子どもの育成

- ・事実と知識を大切にし、探究する子ども
- ・自ら調べ、考え、学ぶ子ども
- ・人とのつながりを大切にする子ども
- ・豊かで楽しい生活を追い求める子ども

朝夕の寒さが一段と厳しくなって参りました。保護者の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。いつも本校教育推進のためにご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

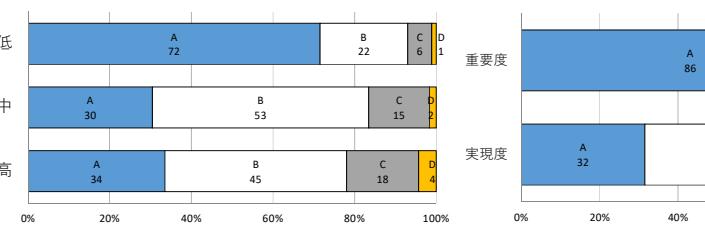
さて、今年度7月に実施しました前期ふり返りアンケートの集計結果について、お知らせいたします。

A…よくできている B…大体できている C…あまりできていない D…できていない

1 確かな学力

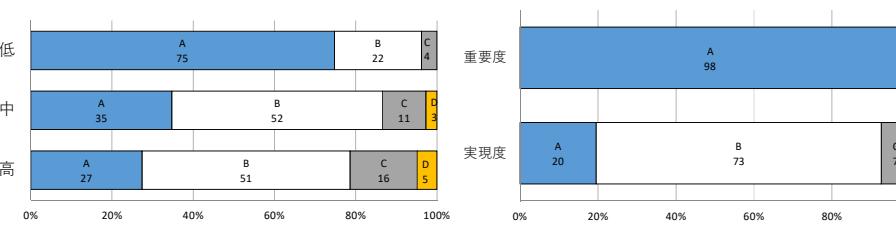
【家庭での自主学習】〈児童〉

- ①家で進んで宿題や自主学習（予習・復習）をしている



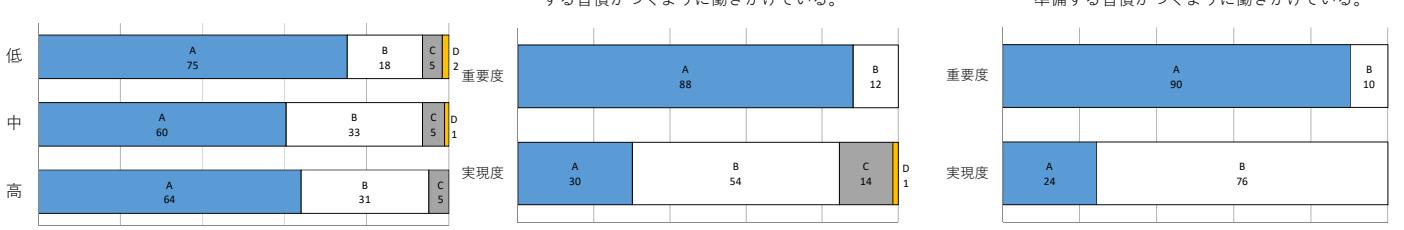
【めあてをもって粘り強く学習に取り組む】

- ③学校でめあてをもってわかる（できる）まで粘り強く学習に取り組んでいる



【学習の準備】

- ④学校に必要な物を自分で準備している

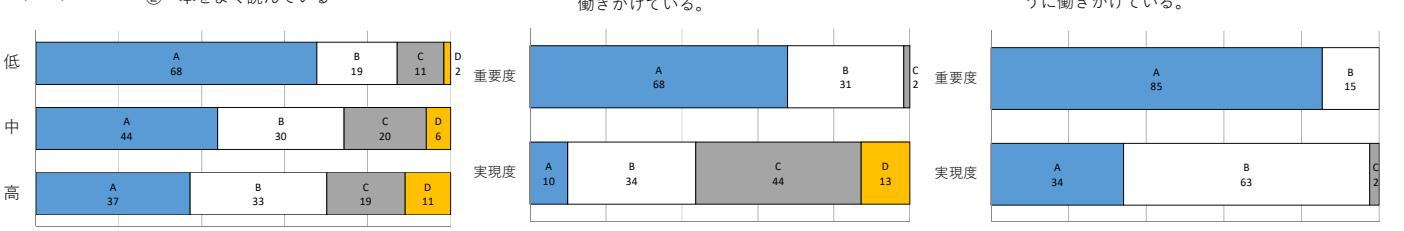


「家庭での自主学習」、「めあてをもって粘り強く学習に取り組む」では、学年が上がるにつれてCD回答が増加しています。これは、学習内容が難しくなったり、学習量が多くなったりすることで、学習意欲が低下することが要因ではないかと考えられます。教職員の「わかりやすい授業」についても厳しく見つめ直す必要があります。学校としてこのことを強く意識し、児童の意欲が向上するような学習課題の設定やGIGA端末を活用した主体的な学習活動の工夫に入れてていきます。更に教職員の研修や校内研究の充実、情報共有を重ねてよりよい授業になるように取組を進めていきたいと思います。また、自主学習については、家庭学習の方法を分かりやすく伝えたり学習内容を工夫したりして学習習慣の確立、家庭学習の質の向上に努めていきたいと思います。（※1）「学習の準備」については、概ね自分で行う習慣が付いているようです。CD回答や自分で準備はしていても忘れ物が多いという児童については、一人一人に応じた個別の声かけをする等、ご家庭と連携しながら、学習準備の習慣が定着するように取組を進めています。

（※の内容は、自由記述欄のページにも回答を記載させていただいている）

【読書の習慣】

- ②本をよく読んでいる



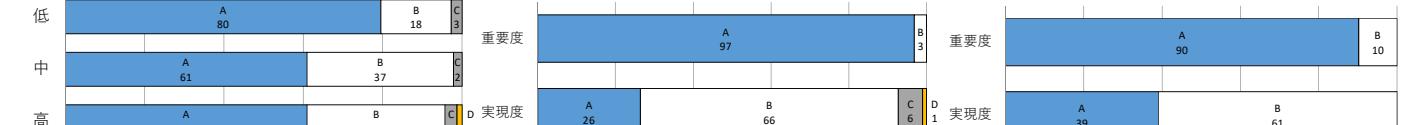
「読書の習慣」については、AB回答が低学年では85%を超えていましたが、学年が上がるにつれて徐々に減少（中74%，高71%）する傾向にあります。このような結果となった要因として、絵本から読み物への移行がスムーズにいかず、年齢や実態に合った本に出会えないことが大きいと感じています。短時間で読める本や文字の大きい本を配架したり、本の展示方法を工夫したりするなど、絵本から児童書へのスムーズな移行ができるよう取り組んでいます。また、手に取りたくなる書架へのリニューアルを行ったり、各教科の学習とも関連させながら、いろいろなジャンルの本に親しむ機会を設けたりしたいと思います。昨年度に引き続き、今年度も読書週間の取組の一つとして「おうちで読書」を呼びかけたところ、たくさんのご家庭から感想をお寄せいただきました。また、夏休みの課題として行った「ブックウォーク」では、多くの児童が目標冊数を超える読書を家庭で行うことができました。家庭での本に触れるきっかけ作りとなるように、これらの読書週間の取組を今後も続けていきたいと思います。更に、引き続き学校司書や図書ボランティアの皆様とも協力して、日常の読書の習慣化につなげていきたいと考えています。（※2）

（※の内容は、自由記述欄のページにも回答を記載させていただいている）

2 豊かな心

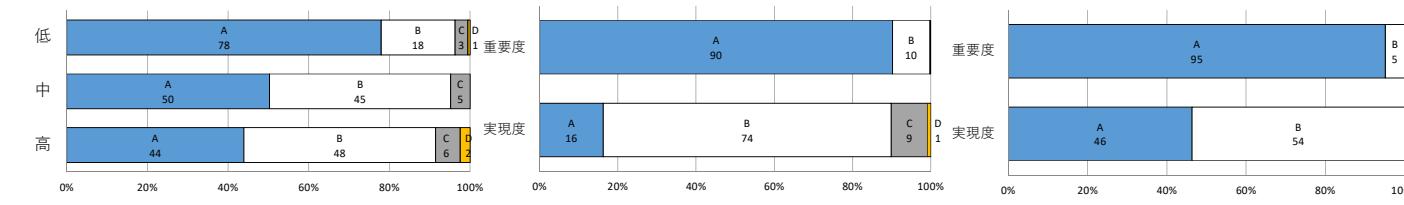
【思いやりのあるやさしい心】

- 〈児童〉 ⑥学校の友達に優しくしている
〈教職員〉 ④子どもに、思いやりのある優しい心が育つように働きかけている。
⑥子どもたちに、思いやりのある優しい心が育つように働きかけをしている。



【人権を大切にした教育】

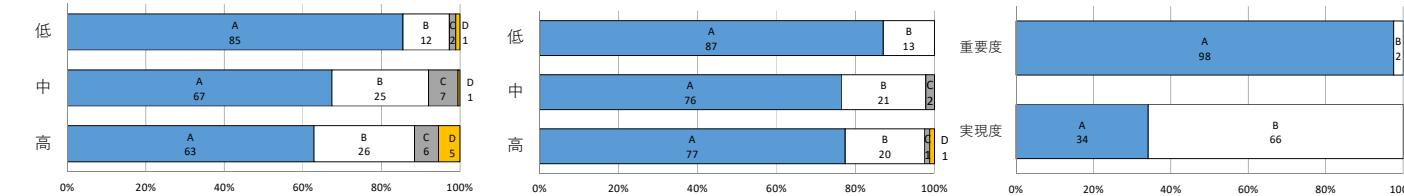
- 〈児童〉 ⑧友達の話をしっかり聞いたり、ふわふわことばを使ったりしている
〈保護者〉 ⑤家庭では、子どもの人権を大切にして、子どもに接している。
〈教職員〉 ⑦一人一人の人権を大切にした教育活動を行なうことができている。



「思いやりのあるやさしい心」「人権を大切にした教育」については、児童・保護者・教職員でAB回答が90%を超える結果となりました。本校のめざす子ども像、「人のつながり」を大切にする子どもに向けて、学校や家庭での取組の積み重ねが、このような良好な結果を招いていると考えられます。しかし一方で、CD回答の児童がいることもしっかりと受け止める必要があります。成長とともに自分のことを客観的に見ることができるようになったり、友だち関係が深くなったりしたがゆえに言葉遣いなどに遠慮がなくなったりしていることも考えられます。アンケートの結果だけではなく、普段の児童同士の関わり合いを教職員がしっかりと見取り、ふさわしくない言動については全教職員が同じ視点で指導することが大切だと考えます。どんな言葉をかけるとみんなが気持ちよく過ごせるか、どんな言葉をかけられたときに自分がうれしかったのかなどを交流し考えることにより、温かい言葉かけを実践していくようにすることも大切です。保護者・教職員においても、自らの言動が周囲に及ぼす影響を想像する力を養い、自らの人権意識を高めていくことが大切であると考えます。

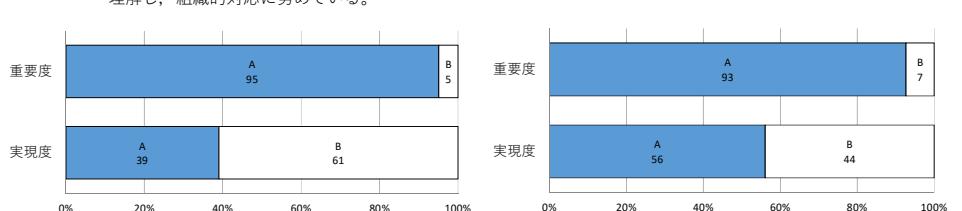
【楽しい学校生活】

- 〈児童〉 ⑤学校は毎日楽しい
〈教職員〉 ⑦先生は、自分のことをわかってくれて、みんなのことを大切にしている
〈教職員〉 ⑤子どもたちが、毎日楽しい学校生活を送れるような取組をしている。



【いじめ防止のための取組】

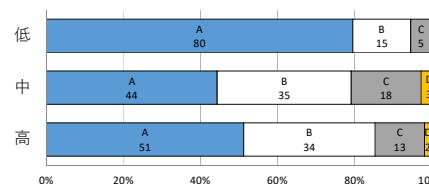
- 〈教職員〉 ⑨「学校いじめ防止基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努めている。
〈教職員〉 ⑩児童アンケート・保護者の訴え（アンケート結果を含む）について内容を共有し、全児童に対して教育相談を実施している。



90%以上の児童が「学校は毎日楽しい」と感じているようです。また、「先生は自分のことをわかってくれて、みんなのことを大切にしている」でも多くの児童がAB回答となっています。児童にとって学校が安心して過ごせる場となっていることを大変うれしく思います。しかし、そうでないと感じている児童がいることもしっかりと認識し、担任をはじめとした教職員が的確に児童の様子を把握し、その思いを受け止めるために、児童の言葉に耳を傾け、家庭と連携しながら働きかけていく必要があると感じます。そのため、この「ふり返りアンケート」はもちろん、「いじめアンケート」、4年生以上の「クラスマネジメントシート」などを有効に活用し、児童の実態を把握することに努めています。更に「児童に対する教育相談の実施」は、確実に丁寧に行なうよう努めています。そのような教職員の働きかけが、児童の「学校が楽しい」「先生は自分のことをわかってくれて、みんなのことを大切にしている」の結果にもつながってくるのではないかと考えて取り組んでいます。

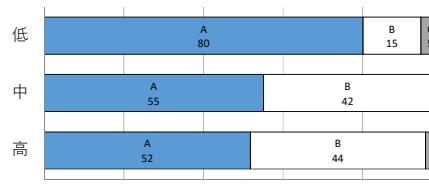
【あいさつをする】

〈児童〉 ⑨進んであいさつをしている



【規則を守る】

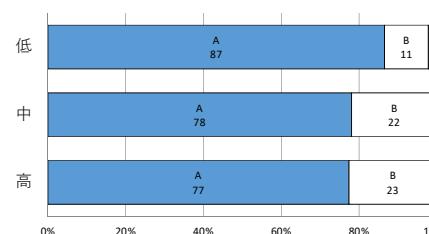
〈児童〉 ⑩学校のきまりを守って、生活している



3 健やかな体

【安全に気を付ける】

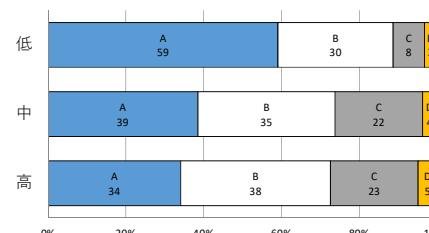
〈児童〉 ⑪交通ルールを守り、安全に気を付けて行動している



「安全に気を付ける」では、AB回答の児童の割合が100%近い結果となっています。多くの家庭で安全について話題にしていただき、学校でも安全に配慮した教育活動を心がけていることで、家庭と学校が連携した児童への働きかけができていることが伺えます。また、子ども見守り隊の方々も、児童の登下校の様子を見ています。しかし、児童の様子を見ていると、特に下校時に車が頻繁に通る道を走っていたり、友だちと遊びながら帰っていましたら、危険な場面をよく見かけます。今後も引き続き、見守り隊の方々とも連携しながら、児童の様子を見守り、必要に応じて注意を促していきます。それをお便り等でご家庭にも発信することで、更に連携を深めていきたいと思います。

【早寝・早起き】

〈児童〉 ⑫毎日早寝・早起きをしている



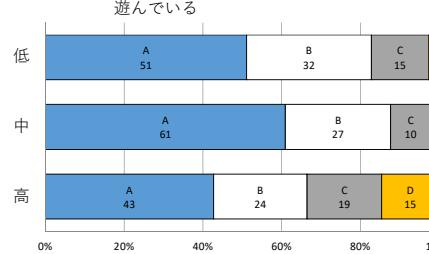
【朝ごはん】

〈児童〉 ⑬毎日朝ごはんを食べている

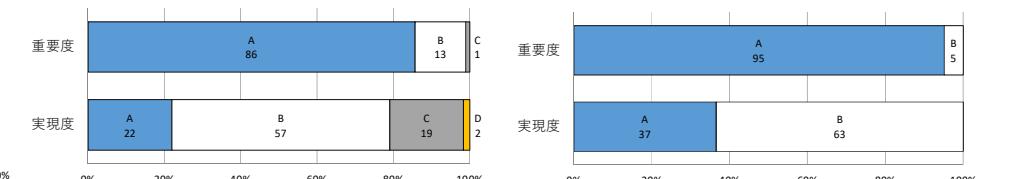


【体を動かして遊ぶ】

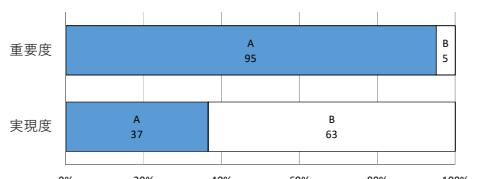
〈児童〉 ⑭休み時間に外に出て体を動かして遊んでいる



〈保護者〉 ⑥子どもが、身近ないろいろな人にあいさつをするように働きかけている。



〈教職員〉 ⑧子どもたちが、いろいろな場であいさつができるように働きかけている。



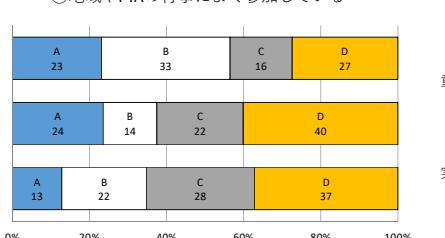
「早寝・早起き」については課題が見られます。学年が上がるにつれ、宿題や習い事、メディア(TV、ゲーム、タブレット)などに時間を費やすことが多いっているため、就寝が遅くなり、起床も遅くなることがあります。また、「朝ごはん」についてCD回答の児童も、少なからずいることがあります。早起きができるため、朝食をしっかりと摂ることができないのだと想われます。教職員の働きかけにも改善の余地があります。各学級での指導に加え、保健だより等で睡眠時間の確保の大切さや時間の使い方(TVを見る時間、物事の優先順位など)、体育科の保健学習や養護教諭による保健指導、栄養教諭による食の学習とも関連させながら、規則正しい生活習慣の確立、健康への意識を高めています。また、長期休業明けに「生活見直し週間」を設定し、すこやかチャレンジのプリントで実態把握をすることで、家庭と協力しながら、児童が生活リズムを整えるよう全教職員が意識して指導を行っていきます。

「休み時間に外に出て体を動かして遊んでいる」については、コロナ禍の影響により運動場で遊べる時間や内容に制約があるため、外で体を動かして遊ぶことができないと感じる児童が多くなっているようです。感染予防をしながら、体を動かして遊ぶことが増えるよう働きかけを続けていきます。更に、様々な遊びに挑戦する「ジャンプアップ週間」も活用しながら、児童の体力向上をめざした取組を進めています。加えて、体を動かして遊ぶことが成長に及ぼすよさも伝えていきます。

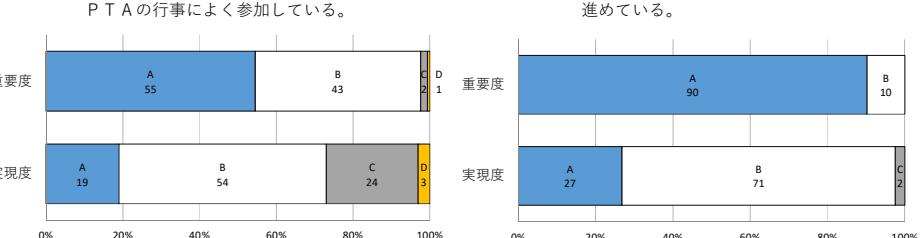
4 その他

【地域・PTA行事への参加】

〈児童〉 ⑯地域やPTAの行事によく参加している

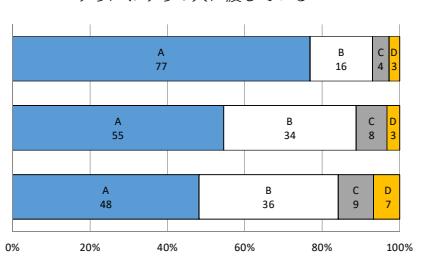


〈教職員〉 ⑯学校(授業参観・学級懇談会など)や地域、PTAの行事によく参加している

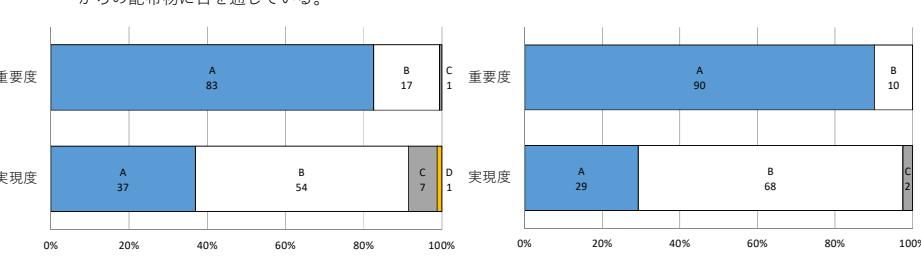


【学校・家庭・地域の連携】

〈児童〉 ⑯学校からもらうプリントをその日のうちにうちの人に渡している



〈教職員〉 ⑯学校のホームページや学校(学年・学級)からの配布物に目を通している



「地域・PTA行事への参加」については昨年度に引き続き、様々な地域・PTA行事が中止となっているため、児童の実現度は全体的に低くなっています。保護者の結果からは、参加することは重要と考えてはいるが、コロナ禍の影響があったり、時間的な余裕がなかったりすることで参加できていないという実態もかかっています。年に数回でも参加できる機会があれば、地域のたくさんの人々とつながることができます。災害等、何かが起こった時にお互いに助け合える絆づくりを普段からしておくことも大切だと考えます。そういう視点からも、今後、行事が再開されましたら、学校ホームページや学校だよりを通して広報に努め、参加を呼びかけていきます。

「学校からもらうプリントをその日のうちにうちの人に渡している」では、CD回答が学年が上がるにつれて増加しています。このことから、学年が上がるにつれてルーズになっていることが伺えます。学校からのおたよりなどが配布された日に、確実にご家庭に届くように、普段から持ち物を整理整頓する習慣付けを今後も行っていきます。また、学校ホームページについては、タイムリーに更新して情報発信に努め、家庭や地域の学校教育活動への理解を得るとともに、家庭や地域と連携した取組を更に進められるようにと考えています。

◆学校運営協議会評議委員会より 一改善に向けて話し合いましたー

- 登下校時の見守り活動の際には、以前は挨拶をしても返してくれなかっ子たちが挨拶を返してくれたり、にっこりしてくれたりする。昨年度と比べ、挨拶ができる子が増えているように感じる。高学年になると恥ずかしさから挨拶できないこともあるかもしれないが、話しかけると笑顔で返事をしてくれるのに、やさしい心が育っていると感じる。慣れれば挨拶をしてくれるのに、大人が根気強く働きかけていくことが大切だと思う。
- 黄帽子をかぶって登下校することは、安全面でとてもよいことである。車を運転している際も、黄帽子が見えると安全に気を付けようと思えるので、今後も引き続き続けていってほしい。西京極小学校の児童は1年生から6年生まで全員が黄帽子をかぶっているので、とてもよいことだと思う。
- 見守り隊の方々は、登校時の通学路に危険(工事や駐車車両など)を見つけるとすぐに駆けつけて下さり、場合によっては警察への通報もしてくださっている。学校ではたくさんの方々によって安全を守られていることを子どもたちに伝えるとともに、横断歩道や十字路等ではしっかり止まって周りを見るなどを引き続き指導していく。
- 朝の登校時とは違い、下校時の子どもたちはとても賑やかな様子である。歩道や路側帯を広がって歩いていたり、交通量が多い道路を走って帰っている姿を見かけることがある。通学路を大きな車が走っていることが多いので、安全に下校できるよう見守りを行ったり、子どもたち自身が気を付けて行動できるように指導をしていく必要性がある。
- 子どもは大人のことをよく見ている。挨拶や交通ルールを守ることなど、大人は子どもの手本となるように、日々の言動に気をつけていきたい。
- よい生活習慣を身につけるためには、日々の取組が大切である。習慣化できるように様々な面でサポートをしていきたい。

◆学校評議アンケートー 振り返りを通してより良い教育活動へー

京都市教育委員会生涯学習部より発行されている「コミュニティ・スクール通信@京都」にも掲載されているように、子どもたちの学校生活をよりよいものにするためには、学校・家庭・地域が互いに高め合う双方向の信頼関係を構築することが何よりも大切です。そして、三者が「子どもたちのために、自分はどのようなことができるだろうか。」という意識をもって、それぞれが教育活動に参画し、子どもを育むための取組を進めていくことが大切です。

子どもたちへの教育は、学校だけで行うものではありません。「PLAN」(教育計画)⇒「DO」(教育活動)⇒「CHECK」(点検【評価】)⇒「ACTION」(修正・改善)のサイクルの中で、教職員は、「教職員アンケート」を通して自己の取組について振り返っております。同様に、保護者の方にもアンケートを通して「自分はできているだろうか。」と振り返って考えていただき、今後のより良い教育活動に生かしていただけます。機会として、「保護者アンケート」を実施しております。ご理解いただきありがとうございます。